

Ophthalmic adverse effects of immune checkpoint inhibitors: the Mayo Clinic experience.

Fortes BH, Liou H, Dalvin LA.

Br J Ophthalmol. 2021;105(9):1263-1271.

PMID: 32830124

doi: 10.1136/bjophthalmol-2020-316970. Epub 2020 Aug 23.

免疫チェックポイント阻害剤の眼副作用：メイヨークリニックの経験

免疫チェックポイント阻害剤は癌末期患者、すなわち転移症例や再発症例に用いられる免疫療法の1つで、劇的な臨床効果が近年注目されています。一方で副作用も多く報告されており、国内でも免疫チェックポイント阻害剤による、ぶどう膜炎の発症が報告されています。

ご紹介する論文では、単一施設で免疫チェックポイント阻害剤を使用した996人を対象に、臨床的特徴、治療法、併発した全身性副作用についてレトロスペクティブに検討しています。免疫チェックポイント阻害剤による治療受けられた症例の約2.8%に眼副作用がみられており、免疫チェックポイント阻害剤の中でペンブロリズマブ(抗PD-1抗体薬:キイトルーダ®)による眼副作用が最も多かったとしています。最も多かった眼症状はドライアイ(57%)、次いでぶどう膜炎(14%)、眼瞼下垂や両眼複視などの単発例もみられています。追跡調査が可能であった13例のうち12例(92%)で免疫チェックポイント阻害剤による治療を中止することなく眼科の副作用がコントロールされ、汎ぶどう膜炎をきたした患者1例が免疫チェックポイント阻害剤の中止が必要でした。

今後、免疫チェックポイント阻害剤による治療を受けられる症例が増大することが予想されているため、上記のような眼症状を有する症例の増加が予想されます。

(担当者： 東京医科大学 坪田 欣也)